

HQR023-04

会場:303

時間:5月24日 17:15-17:30

宇都宮市中里における最終氷期最盛期の植物化石群

Plant fossil assemblages of the Last Glacial Maximum at Nakazato, northern Kanto region

西内 李佳^{4*}, 百原 新², 大里 重人³, 遠藤 邦彦¹

Rika Nishiuchi^{4*}, Arata Momohara², Shigeto Osato³, Kunihiko Endo¹

¹ 日本大学地球システム, ² 千葉大学園芸学部, ³ 土質リサーチ, ⁴ 日本大学大学院

¹Nihon Univ. Geosystem, ²Chiba University, Horticulture, ³Doshitsu Research Corporation, ⁴Nihon Univ.

栃木県宇都宮市北部に位置する中里で、宅地造成および公園整備のため、林地の一部が開削された。この露頭では最終氷期に形成された谷地形と、日光火山群を給源とするテフラ層を含む谷埋め堆積物が明瞭に観察できる。露頭では3つの谷が見られ、その中で最後まで水流が残っていた（布川・竹下, 2010）谷の最下部には小川スコリア（Og）を挟む厚い泥炭層が堆積し、この泥炭層の上位は今市軽石（IP）、七本桜軽石（SP）で覆われている。小川スコリアはAT火山灰の若干上位に見られるとされており（鈴木, 1993）、したがってこの泥炭層は最終氷期最盛期に堆積したと考えられる。この時代の植物化石群の報告は関東北部周辺ではきわめて少ない。そこで本研究では、花粉分析と大型植物化石の調査を行い、最終氷期最盛期の調査地周辺の植物相を明らかにする。

堆積物を水洗篩分することで大型植物化石群を取り出し、その層準の花粉分析を行った。その結果、大型植物化石群は、トウヒ、ツガ属、シラビソを含むモミ属、カバノキ属果実といった、最終氷期の典型的な組成を示した。最終氷期化石群の従来の報告では、トウヒ属のうち、パラモミ節がよく報告されてきたが、この化石群には現在の亜高山帯針葉樹林に多いトウヒが含まれていた。小川スコリア上位の花粉群ではトウヒ属とカバノキ属の花粉が高率に含まれていた。本発表では、関東地方やその周辺の他の地点の最終氷期最盛期植物化石群の報告と比較して検討を行う。

謝辞

今回報告した中里の露頭の植物化石群は、露頭を記録保存する過程で発見されたものである。調査に当たっては、土地管理者である宇都宮市関係各部署の担当者には調査の許可並びに工事との調整をしていただいた。また、露頭の記録保存を実施している中里原露頭研究グループのコアメンバー、宇都宮大学中村洋一氏、松居誠一郎氏、酒井豊三郎氏、栃木県立博物館布川嘉英氏、群馬大学若井明彦氏、芙蓉地質喜内敏夫が所属する地盤工学会関東支部「関東地域の火山由来地盤の災害事例研究と地域特性に関する研究委員会」には露頭調査に際し支援をいただいた。

末尾ではあるが公表並びに調査の支援に対し感謝の意を表す。

引用文献

布川嘉英・竹下欣宏（2010）栃木県内の第四紀火山灰露頭調査報告：テーマ展「栃木の火山灰から噴火を読む」の調査から。栃木県立博物館研究紀要 自然, 27, pp.1-17.

鈴木毅彦（1993）北関東那須野原周辺に分布する指標テフラ層。地学雑誌, 102（1）, pp.73-90.

キーワード: 花粉分析, 大型植物化石, 最終氷期最盛期, 北関東

Keywords: pollen analysis, plant macrofossil, The Last Glacial Maximum, northern Kanto region